

令和三年度 学生による授業評価結果報告

例年と同様に、学芸員課程の全授業について、学生による授業評価を実施しました。授業評価は、学生の授業に対する意識を確認し、その授業内容を向上させるとともに、教員の授業方法の得失を浮き彫りにして、その改善を図るために行われるものです。しかし、昨今のコロナという特殊な状況下においては、ただ単に授業の良い点や問題点に注目するだけでなく、オンライン授業により自宅学習を強いられている履修学生の置かれた厳しい状況と、そこから派生する異質な学習環境や学習効果の減殺、自己学習力の低減などの問題点についても、広く目を配る必要があるでしょう。そこで、これまで継続してきた評価項目に対する評価数値の変動に着目するよりも、二年目を迎えたコロナの状況を踏まえて、今年度の授業評価の講評は、敢えて上記の問題意識から授業評価の結果を分析してみたいと思います。

まず、「学修内容のレベルは適切でしたか」という項目については、「やや難しい」「適切」の数値が、全体の約 97 パーセントとなっています。オンライン授業は、教員間や授業ごとに、その実施方法のばらつきがあるものの、一般論として、対面授業のような履修学生の授業への参加意識が希薄であると推定されます。その点で、この数値は、オンライン授業が全授業の大部分を占めるという現状を勘案しても、学芸員課程を担当した諸教員の努力の賜物と評価していいでしょう。一方、「学修内容の分量は適切でしたか」の項目については、「適切」が約八割でしたが、「多い」「やや多い」が約 19 パーセントを占めています。対面授業のように履修学生と接して、その個々の反応や、クラス全体の雰囲気や、担当教員が直接に感じ取ることの難しいオンライン授業の場合、履修学生の戸惑いや理解の停滞を把握することが、いかに困難であるかを物語る数値と読める可能性があります。

しかしながら、「シラバスに沿って行われていましたか」では、「そう思う」「ややそう思う」が約 95 パーセント、「学生の感想・反応を確認しながら授業はすすめられていましたか」の項目については、「そう思う」「ややそう思う」が約 95 パーセントを占めており、本学における学芸員課程の授業が、おおむね学生を満足させるものであることが明らかとなります。オンライン授業における気掛かりな点として、パソコンなどの機器を使用したことから生ずる諸問題を無視することは許されません。「教員の話し方は、聞き取りやすかったですか」「教員の説明や資料はわかりやすいものでしたか」「テキスト・配布資料・画像などは、効果的なものが使用されてましたか」などの項目は、まさに時宜を得た質問項目として、特に注目されます。それぞれ質問に対して、「そう思う」「ややそう思う」がいずれも 9 割を超えており、満足すべきと判断でき、今後の事態に大きな変化があり得るとしても、来年度以降もこうした方向性を堅持していただきたいと思います。

最後に、授業に参加した履修学生についてですが、「宿題・課題、予習・復習にかけた勉強量はどれくらいでしたか」という項目については、「2 時間程度」が約 20 パーセントとなっており、昨年度後期の授業評価の同項目の約 14 パーセントから数値の増加が見られます。オンライン授業の場合、どうしても個々の学生の自己学習力の持続を促してやる必要があります。その際に、こうした適切な宿題や課題が効果的であることは贅言を要さないでしょう。以上、上記のような結果を踏まえて、来年度以降も学芸員課程の授業内容とその方法についてのさらなる向上をお願い申し上げます。

以上